

日新館についてわかったこと

6 1 1 0 S H

(1) 日新館

日新館は寛政11年4月から工事が始まり、5年もの年月を費やして文化元年に完成した立派な学校です。内部は大成殿を中心に素読書、講釈所をはじめ、そのほかたくさんの校舎が並びました。

戦力におもきをおいて武器などの買い入れにも力をそそぎました。



《子供たちの暮らし》

男の子たちは10さいになると日新館に入学するきまりになっています。

日新館の子供たちは、いろんなきまりを守って暮らしていました。そして、きまりを一つでも破ったらばつを受けなければならなかったそうです。

《勉強について》

男の子たちは10才になると日新館という学校に入学するきまりになっていました。また、これとは別に6～9才までの幼い子供たちは入学前から立派な生徒になろうとして子供たちだけの集まりをつくっていました。この集まりを「お話の什」「遊びの什」と言っていました。まず会津武士の子供はこのようにしなければならぬという心構えから、おたがいに、約束を決め、子供たちの家を順番に会場として、そこで熱心に反省会を開きました。そしてその約束事にそむかないよう努力したのです。

いくつかある約束事のおわりに「ならぬことはならぬのです」という言葉がある。将来立派な指導者となる武士としての自覚や責任が子供の時からしっかりつけられていました。

日新館に入学すると、はじめに素読書に入ります。ここで6～7年ほど勉強をし、試験によってその上の講しゃく所に入って勉強することになっていました。ここの生徒たちは、「生徒の什」というグループを作り毎日、学校から帰ってくると決まった場所に集まって、勉強のことや、心について学び合いました。そしてまた、小さい子供たちの集まりである「遊びの什」を親切に指導したりしていたのです。

特に優秀な生徒は、ここを終えると藩の費用で江戸や長崎にも留学できましたから、自分の努力によってはいくらでも学問や技術を進めていくことができました。

《生徒が習うけいこ》

武道には剣道のほかにもいろいろありましたが、学校の外でも先生の道場やその他のけいこ場がたくさんあって、生徒たちはそういう場所でもけいこをしていました。

当時、剣道の道場は22カ所、弓道は7カ所、槍術は4カ所もありました。その他、柔道、馬術、居合、砲術などを加えるとずいぶんな数になります。

《まとめ》

ぼくは、昔の日新館には色んな勉強をするところがあってすごいと思いました。昔の子供たちは、とても楽しくくらししているんだと思いました。

そして子供たちは、みんな什の掟を守って暮らしていることがわかりました。